

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：35402

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02894

研究課題名(和文) 大学英語教育における外国人教師の主観的役割認識とその形成要因に関する研究

研究課題名(英文) An Exploratory Study on the Role Perceptions of Non-Japanese University English Teachers

研究代表者

森谷 浩士(Hiroshi, Moritani)

広島経済大学・教養教育部・講師

研究者番号：80524173

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：近年、大学英語教育においては、外国人英語教師による授業が以前に比べて一般的になりつつある。本研究では、彼らが授業内での自らの役割をどのように認識しているか(主観的役割認識)を質的・量的な手法を用いて調査した。分析に際しては、日本人英語教師との比較を行い、彼らの特徴を明らかにした。結果として、外国人英語教師と日本人英語教師の役割認識には、多くの共通点が見られたが、外国人教師は日本人教師に比べて、ファシリテーター(援助者、ガイド)とデザイナー(授業設計者)としての役割を強く認識していることが分かった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大学における外国人英語教師は、初等教育、中等教育の助手(ALT)とは異なり、彼ら自身で授業を計画し実施している。つまり、彼らは日本人英語教師同様に重要な存在である。にも関わらず、彼らを対象とした研究は希少であった。本研究では、最も学生の学習成果に関係があると思われる教室における彼らの教師としての意識を探ることが主目的で、彼らの役割認識を明らかにできたことは、今後、日本人教師との協働的な大学英語教育を実施する際の参考になるものであり、社会的意義が大きい。

研究成果の概要(英文)：In recent years, university English courses in Japan taught by non-Japanese teachers of English (NJTEs) are becoming increasingly more common. The main objective of the present study was to qualitatively and quantitatively investigate how NJTEs subjectively perceived their in-class teaching roles. Through a comparison with Japanese university teachers of English, the findings revealed that NJTEs perceived themselves as taking the roles of "a facilitator (a supporter and guide)" and "a course/ material designer" more strongly than Japanese teachers.

研究分野：外国語教育

キーワード：大学英語教育 大学英語教師 教師認知 教師ピリーフ 役割認識

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、日本の大学英語教育において、外国人英語教師 (Non-Japanese teachers of English, 以下 NJTEs) を登用した授業が以前に比べて増えてきた。大学における NJTEs は、初等・中等教育における助手 (ALT) とは異なり、彼ら自身で授業を計画し実施している。このことを考慮すると、各大学の英語教育に与える彼らの影響は大きい。しかし、NJTEs がどのような信念・信条、考え、知識などに基づいて授業を計画し、それを実施しているかについては、十分に調査されているとは言えない状況であった。教師の信念・信条、考え、知識といった教師の内面を研究対象とする教師認知研究は、教師の内面 (教師認知) が授業実践に与える影響力が大きいことを指摘しており (Borg, 2006; Woods, 1996)、日本で行われている大学英語教育の現状を理解する上でも、NJTEs を対象とした教師認知研究はニーズが高まっていた。

2. 研究の目的

本研究では、NJTEs の教師認知の特徴を日本人英語教師 (JTEs) との比較を通じて探ることを目的とした。教師認知研究の観点は多岐に亘るが、本研究では、教師が授業内での自らの役割をどのように認識しているか (主観的役割認識) という点に着目した。その理由は、主観的役割認識が教師の信念・信条、考え、知識といった教師認知で特に重要とされている要因と密接に関連し、授業実践の根幹をなすと考えられるためである (Farrell, 2011)。より具体的な目的としては、(1) NJTEs と JTEs では主観的役割認識に違いがあるか、(2) 違いがあるのであれば、その違いを生み出す要因は何かという点について、実証データを用いて考察することであった。

3. 研究の方法

本研究は、面接調査による質的な研究とその研究成果を基にしたアンケート調査による量的な研究の両者を組み合わせた混合研究法より実施した。質的調査を先行させた理由は、日本の大学英語教育という固有の文脈が反映されたアンケート調査を行うためである。

(1) 質的研究 (面接調査)

研究初年度 (2017 年度) に、大学英語教師 (共通教育科目としての英語を指導する教師) を対象とした面接調査を行った。協力者は 34 人 (NJTEs = 22 人、JTEs = 12 人) で、大学英語教育歴や勤務先の異なる教師に協力を依頼して彼らの考えを聞いた。調査では、(a) 各協力者が自身の役割をどのように認識しているかと (b) なぜその役割が重要なのか (形成要因) を尋ねた。得られたデータは、(a) 役割ごとにコード化すると同時に、(b) 形成要因に関する証言のコード化と生成されたコードのカテゴリー化を行い、それぞれの形成要因を整理した。なお、調査に際しては調査の目的や意図を理解してもらったうえで協力してもらった。

(2) 量的研究 (アンケート調査)

量的研究 (アンケート調査) では、先行した質的研究 (面接調査) で得られたデータを基に質問項目を作成し調査を実施した。調査の質問項目は、(i) 回答者の背景要因、(ii) 役割認識、(iii) 形成要因からなり、質問項目は全 51 項目で、(i) 背景要因は選択式項目、(ii) 役割認識と (iii) 形成要因は Likert 尺度 7 件法で回答を得た。調査は、インターネットを利用して行い、調査の目的や意図を理解した協力者だけが回答した。その結果、328 人 (NJTEs = 158 人、JTEs = 170 人) から回答を得た。得られたデータは統計的に分析を行った。

4. 研究成果

(1) 質的研究

質的研究では、大学英語教師の主観的役割認識とその形成要因を探った。まず、主観的役割認識に関する調査の結果を表 1 に示す。面接調査 ($n = 34$) の結果、以下の 16 種類の役割認識が得られた。なお、Native speaker との回答は NJTEs より、Japanese (日本人) との回答は JTEs より得た。

表 1. 得られた主観的役割認識一覧 (複数回答可)

1) 英語の専門家 (English expert)	2) 外国文化の体現者 (Cultural representative)	3) 情報伝達者 (Transmitter of knowledge)
4) ファシリテーター (Facilitator)	5) コース・教材設計者 (Course/ material designer)	6) ネイティブスピーカー/日本人 (Native speaker/ Japanese)
7) 言語モデル (Language model)	8) 動機づけを高める人 (Motivator)	9) 世話役 (Caregiver)
10) 楽しませる人 (Entertainer)	11) 評価者 (Assessor)	12) 学習アドバイザー (Learning advisor)
13) まとめ役・指示役 (Organizer)	14) 交流する人 (Socializer)	15) 英語力・学校の販売人 (Vendor of English or school)
16) コーチ (Coach)		

さらに 34 人の協力者のうち、追加質問に回答してくれた 28 人 (NJTEs = 16 人、JTEs = 12 人) に、自身の役割認識の中で最も重要度の高い役割を指定してもらった。その結果が表 2 である。この質問は、質的データの収集を目的として尋ねた質問であったが、報告のために数量化した。

表 2 最も重要度の高い役割 (複数回答可)

最も重要な役割	全体 (n = 28)		NJTEs (n = 16)		JTEs (n = 12)	
	n	%	n	%	n	%
ファシリテーター (Facilitator)	14	50.0%	9	56.3%	5	41.6%
動機づけを高める人 (Motivator)	8	28.6%	3	18.8%	5	41.6%
英語の専門家 (English expert)	5	17.9%	3	18.8%	2	16.7%
情報伝達者 (Transmitter of knowledge)	3	10.7%	2	12.5%	1	8.3%
言語モデル (Language model)	3	10.7%	1	6.3%	2	16.7%
外国文化の体現者 (Cultural representative)	2	7.1%	0	-	2	16.7%
コース・教材設計者 (Course/ material designer)	2	7.1%	2	12.5%	0	-
学習アドバイザー (Learning advisor)	2	7.1%	2	12.5%	0	-
まとめ役・指示役 (Organizer)	1	3.6%	1	6.3%	0	-
楽しませる人 (Entertainer)	1	3.6%	0	-	1	8.3%
ネイティブスピーカー (Native speaker)	1	-	1	6.3%	n/a	
日本人 (Japanese)	1	-	n/a		1	8.3%

Note. パーセンテージは回答者数に対する数値

NJTEs が認識する最も重要な役割と JTEs のそれとを比べると傾向が異なる。「ファシリテーター」は全体の半数が最も重要だと判断してはいるが、NJTEs では協力者の半数以上がこれを最も重要だと捉えており (56.3%)、他の役割に比べてもこの重要度を高く捉える NJTEs が多かったことがわかる。一方で、JTEs では、「ファシリテーター」も重要であると捉えられてはいるが、同様に「動機づけを高める人」も最も重要な役割として選ばれている (各 41.6%)。また、「コース・教材設計者」や「学習アドバイザー」は NJTEs のみに、「外国文化の体現者」は JTEs のみに選ばれており、両群における違いが見られた。

表 1 と表 2 を見比べると、認識する役割には重要度の低いものが存在することがわかる。表 1 にある「世話役」、「評価者」、「交流する人」、「英語力・学校の販売人」、「コーチ」といった項目は表 2 には表れていない。つまり、これらは役割として認識はしているが、重要度の低い役割として認識されていると考えられる。これらより、大学英語教師の主観的役割認識は、多面的でそれぞれの役割に重要度の軽重がある複雑な構造であることがわかった。

続いて、もう一つの目的であった主観的役割認識の形成要因について報告する。表 3 がその結果である。形成要因の分析では、膨大かつ広範に亘る要因が見出された。本報告では紙幅の都合もあり全てを網羅することができないので、主要なものについてのみ報告している。大きく分けて 5 つのメインカテゴリー (A ~ E) に分類され、カテゴリー B、C、E には下位に小分類される形成要因が見出された。これらの要因の影響により、多面的かつ複雑な役割認識が形成されると

考えられる。そして、これらの要因の影響の強さにより主観的役割認識に違いが生じると考えられる。

表3 主観的役割認識に関わる主だった形成要因

メインカテゴリーA: 学習者としての教室経験
メインカテゴリーB: 職能開発 教員養成・教師教育プログラム 教師団体との関わり 同僚との意見交換 自己学習
メインカテゴリーC: 文脈要因 周囲（大学）からの期待 学生要因（性格・低動機づけ）
メインカテゴリーD: 教師としての教室経験
メインカテゴリーE: 教師認知的要因 自己認識（NJTEs：ネイティブとしての意識）/JTEs：日本人としての意識） ビリーフス（明示的文法指導）

(2)量的研究（アンケート調査）

図1は、質的研究で重要度が高いとされた役割の中から特に重要度が高く認識されていた上位8つの役割について、その重要度を尋ねた結果（最大値=7、最小値=1）である。NJTEs と JTEs の両群間で比較に際して、統計的な有意差検定を行った（*t*検定）。有意差検定は多重検定に当たるため、ボンフェローニ法により有意水準を $\alpha = .00625$ に設定して検証した。

その結果、調査した8つの役割認識のうち、グループ間の差に統計的な有意差が見られたのは、「ファシリテーター」（ $t(327) = 6.22, p = .000, d = .69$ ）、「コース・教材設計者」（ $t(321.57) = 4.73, p = .000, d = .52$ ）、「学習アドバイザー」（ $t(326.96) = 3.09, p = .002, d = .34$ ）の3つであった。特に、「ファシリテーター」と「コース・教材設計者」の役割認識の差には中程度の効果量が認められ、両グループはこの二つの点について認識の違いがあると言える。学習アドバイザーについては効果量が小さく、サンプル数の影響で有意差が出た可能性もある。まとめるとNJTEs は JTEs に比べて、「ファシリテーター」と「コース・教材の設計者」の役割をより強く認識していることがわかった。

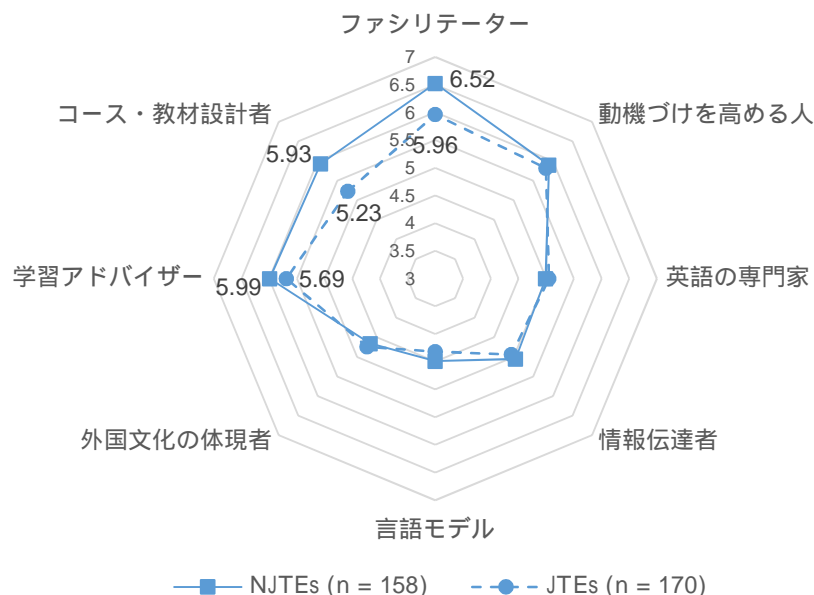


図1 役割認識の重要度比較（NJTEs と JTEs の群間比較）

図2は、役割認識の形成要因の強さを尋ねた結果(最大値=7、最小値=1)である。NJTEsとJTEsの両群間で比較してある。この分析も有意水準を $\alpha = .00625$ に設定した。両群ともに「教員養成・教師教育プログラム」「教師団体との関わり」を強い要因として評価している。

両群間で有意差があったのが、「自己認識」($t(326) = 5.69, p = .000, d = .63$)と「ピリーフス(明示的文法指導)」($t(326) = 5.50, p = .000, d = .61$)の二つであった。「自己認識」は、NJTEsの場合、大学英語教師として自分が(ニア)ネイティブ英語話者であることが重要かどうか(JTEsの場合、大学英語教師として自分が日本人であることが重要かどうか)を尋ねており、この結果は、NJTEsは自身が(ニア)ネイティブ話者であることをさほど重要視していないことを意味する。「ピリーフス(明示的文法指導)」は「明示的に文法を指導したほうが習得により効果的である」と考えているかどうかを尋ねており、NJTEsは、明示的な文法指導をさほど効果的だとは考えていないことを意味する。これらの結果は、NJTEsはJTEsほど、自己認識が強くなく、明示的な文法指導が効果的であるというピリーフスも強くないことを示している。その他の項目に両群間の統計的有意差がないことを考えると、この二つの観点が主観的役割認識の違いに関連している可能性を示唆する結果を得た。

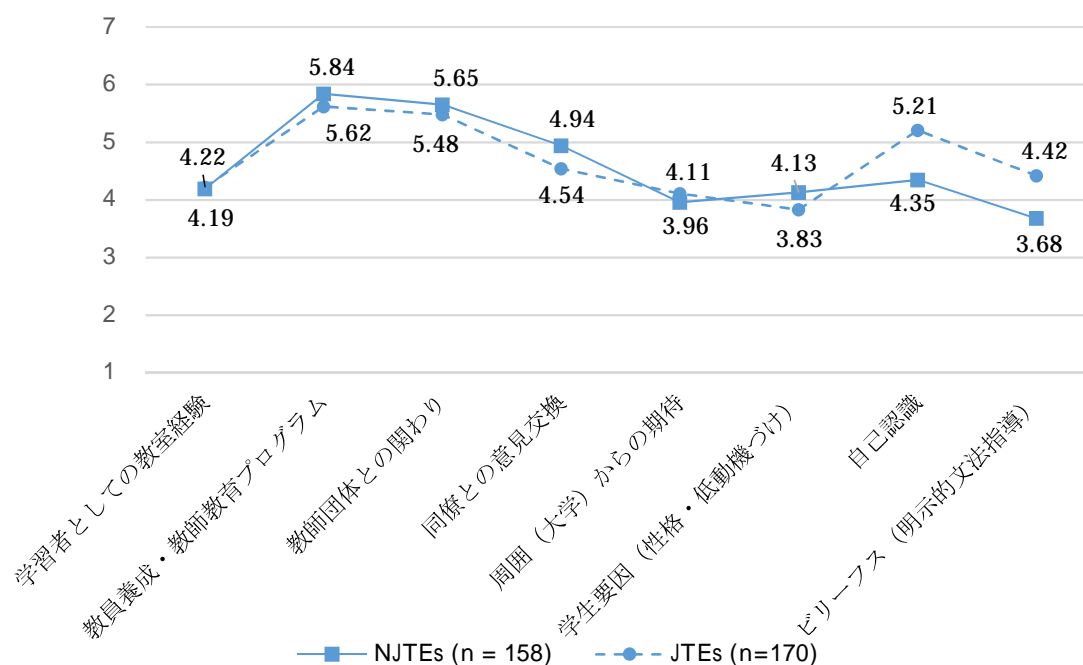


図2 役割認識の影響度比較 (NJTEsとJTEsの群間比較)

まとめると、本研究では、NJTEsは、JTEsに比べ、「ファシリテーター」や「コース・教材設計者」といった役割認識を強く持っていることがわかった。そして、その特徴を生み出す要因として教師認知的要因(「自己認識」と「ピリーフス(明示的文法指導)」)の影響を特定した。これは、冒頭で述べたように、主観的役割認識が教師の信念・信条、考え、知識と密接に関連しているとのFarrell(2011)の主張を実証的に裏付けるものであると言えよう。今後は、ここで報告したような主観的役割認識の違いが実際の授業実践にどのような違いを生み出し、ひいては日本人大学生の英語学習にどのような影響を及ぼすのか更なる研究が必要である。

引用文献

- Borg, S. (2006). *Teacher cognition and language education: Research and practice*. London: Continuum.
- Farrell, T. S. C. (2011). Exploring the professional role identities of experienced ESL teachers through reflective practice. *System*, 39(1), 54-62.
- Woods, D. (1996). *Teacher cognition in language teaching: Beliefs, decision-making, and classroom practice*. Cambridge: Cambridge University Press.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 森谷浩士	4. 巻 9
2. 論文標題 大学英語教師の役割認識に関する探索的研究 質的データ分析から得られた研究方法論への示唆	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 広島市立大学国際学部（編）『複数の「感覚・言語・文化」のインターフェイス：境界面での変化と創造に関する新しい見方』	6. 最初と最後の頁 125-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hiroshi Moritani & Chiaki Iwai	4. 巻 1
2. 論文標題 Role Identities of Japanese Teachers of English at Japanese Universities	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JALT2018 Diversity and Inclusion	6. 最初と最後の頁 50-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.37546/JALTPCP2018-07	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hiroshi Moritani	4. 巻 42(3)
2. 論文標題 Exploring the Role Perceptions of University English Teachers: A Comparison Between Japanese and Non-Japanese Teachers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 広島経済大学研究論集	6. 最初と最後の頁 51-65
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://dx.doi.org/10.18996/kenkyu2020420304	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hiroshi Moritani	4. 巻 1
2. 論文標題 Reflecting on Teacher Roles Using Visual Methods	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Language Teaching in a Global Age: Shaping the Classroom, Shaping the World	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） http://jalt-publications.org/articles/24262-reflecting-teacher-roles-using-visual-methods	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Moritani & Chiaki Iwai	4. 巻 41 (2)
2. 論文標題 A multiple case study on the role perceptions of English as a foreign language teachers at Japanese universities (査読なし)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 広島経済大学研究論集	6. 最初と最後の頁 55-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) http://dx.doi.org/10.18996/kenkyu2018410204	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Moritani	4. 巻 16
2. 論文標題 Non-Japanese University English Teachers' Perceptions of Their Professional Roles: Constructing a Hypothesis Model with the Modified Grounded Theory Approach	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JACET Chugoku-Shikoku Chapter Research Bulletin (大学英語教育学会中国四国支部研究紀要)	6. 最初と最後の頁 49-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Moritani	4. 巻 15
2. 論文標題 A Preliminary Investigation into the Role Identity of Non-Japanese English Teachers at Japanese Universities	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要	6. 最初と最後の頁 143-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 4件)

1. 発表者名 森谷浩士
2. 発表標題 大学英語教員の教師アイデンティティーに関する質的研究
3. 学会等名 2018年度JACET中国・四国支部春季研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroshi Moritani
2. 発表標題 Non-Japanese English teachers' construction of professional role identities
3. 学会等名 The 57th JACET International Convention (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroshi Moritani & Chiaki Iwai
2. 発表標題 Japanese English Teachers' Role Identities
3. 学会等名 JALT 44th Annual International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hiroshi Moritani
2. 発表標題 Narratives on Teacher Role Identity: Preliminary investigation of Non-Japanese English Teachers at the University Level
3. 学会等名 JACET 56th International Convention (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森谷浩士
2. 発表標題 大学英語教員の教育に関わる役割認識についての質的研究
3. 学会等名 大学英語教育学会 中国四国支部研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Hiroshi Moritani
2. 発表標題 Reflecting on Teacher Role Using Mind Maps
3. 学会等名 JALT 43rd Annual International Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩井 千秋 (Iwai Chiaki) (60176526)	広島市立大学・国際学部・教授 (25403)	